

教 育 課 程

I 修士・博士学位取得のためのガイドライン

1. 本研究科で授与する学位

それぞれの課程における専攻で取得できる学位は、次のとおりである。

【修士課程】

数理情報学専攻	修士（理学）
電子情報学専攻	修士（工学）
機械システム工学専攻	修士（工学）
物質化学専攻	修士（工学）
情報メディア学専攻	修士（工学）
環境ソリューション工学専攻	修士（工学）

【博士後期課程】

数理情報学専攻	博士（理学）
電子情報学専攻	博士（工学）
機械システム工学専攻	博士（工学）
物質化学専攻	博士（工学）
情報メディア学専攻	博士（工学）
環境ソリューション工学専攻	博士（工学）

2. 学位授与までのプロセス

【修士課程】

1 年生	
4 月初 4 月上旬	入学式 履修登録 研究題目届提出 ※主指導教員・副指導教員選定
9 月下旬	履修登録修正（後期科目のみ） 研究題目・指導教員変更願出書提出（変更する者のみ）
2 月中旬	修士論文中間発表会（1 年生対象） 【物質化学専攻】【情報メディア学専攻】
2 月下旬	修士論文中間発表会（1 年生対象） 【電子情報学専攻】
3 月中旬	修士論文中間発表会（1 年生対象） 【環境ソリューション工学専攻】
2 年生	
4 月上旬	履修登録 研究題目・指導教員変更願出書提出（変更する者のみ）
4 月下旬～5 月上旬	修士論文中間発表会（2 年生対象） 【機械システム工学専攻】
9 月下旬	履修登録修正（後期科目のみ） 研究題目・指導教員変更願出書提出（変更する者のみ）
12 月上旬	修士論文審査願の提出（正及び副の審査員選定）
2 月上旬	修士論文・修士論文要旨の提出
2 月下旬	修士論文審査・公聴会（最終試験）
3 月	学位授与式

※数理情報学専攻の中間発表会は、各研究室ごとに適宜実施する。

【博士後期課程】

1 年生	
4 月初 4 月上旬	入学式 履修登録 研究題目届・指導教員選定届提出 ※主指導教員・副指導教員選定
9 月下旬	履修登録修正（後期科目のみ） 指導教員並びに研究題目変更届提出（変更する者のみ）
2 月中旬	博士論文中間発表会（1 年生対象） 【物質化学専攻】【情報メディア学専攻】
3 月上旬	博士論文中間発表会（1 年生対象） 【環境ソリューション工学専攻】
2 年生	
4 月上旬	履修登録 指導教員並びに研究題目変更届提出（変更する者のみ）
4 月下旬～5 月上旬	博士論文中間発表会（2 年生対象） 【機械システム工学専攻】
9 月下旬	履修登録修正（後期科目のみ） 指導教員並びに研究題目変更届提出（変更する者のみ）
2 月中旬	博士論文中間発表会（2 年生対象） 【物質化学専攻】【情報メディア学専攻】
3 月上旬	博士論文中間発表会 【環境ソリューション工学専攻】
3 年生	
4 月上旬	履修登録
4 月上旬	博士論文中間発表会（3 年生対象）【機械システム工学専攻】 指導教員並びに研究題目変更届提出（変更する者のみ）
9 月下旬	履修登録修正（後期科目のみ） 指導教員並びに研究題目変更届提出（変更する者のみ）
11 月～12 月	予備審査会【電子情報学専攻】【情報メディア学専攻】【環境ソリューション工学専攻】 審査会【機械システム工学専攻】 下見会【物質化学専攻】 ※内容はいずれも、提出予定論文提出・口頭発表・質疑
12 月上旬	博士論文概要及び論文審査願提出 論文審査員・口述試験委員の選出
1 月上旬	学位申請・学位請求論文の提出
2 月中旬	博士論文公聴会・口述試験（最終試験）
3 月	学位授与式

3. 修了要件

(1) 在学期間

【修士課程】

理工学研究科修士課程に2年以上在学しなければなりません。ただし、在学期間は、本研究科委員会が優れた業績を上げたと認めた者については、大学院に1年以上在学すれば足りるものとします。

【博士後期課程】

博士課程に5年以上（修士課程を修了した者にあつては当該課程における2年の在学期間を含む）在学しなければなりません。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者にあつては、博士課程に3年（修士課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含む）以上在学すれば足りるものとします。なお、修士課程を1年で修了した者については、博士課程に3年間（修士課程の1年間の在学期間を含む）以上在学しなければなりません。

(2) 単位要件

【修士課程】

（数理情報学専攻、電子情報学専攻、機械システム工学専攻、情報メディア学専攻、環境ソリューション工学専攻）

修士課程の修了は、学則掲載の授業科目中から、演習8単位、特別研究8単位を含め、32単位以上を修得しなければなりません。詳細は「Ⅱ履修方法および開設科目 1 履修方法」（10頁）を参照してください。

（物質化学専攻）

修士課程の修了は、学則掲載の授業科目中から、演習12単位、特別研究8単位を含め、32単位以上を修得しなければなりません。詳細は「Ⅱ履修方法および開設科目 1 履修方法」（10頁）を参照してください。

【博士後期課程】

博士後期課程の修了は、指導教授の指導により専攻する分野の特別研究12単位を修得しなければなりません。さらに指導教授の指示を受け特別講義を履修するものとし、博士論文を提出してその審査及び最終試験に合格しなければなりません。

なお、在学期間を短縮し修了する場合には、「高度専門研究特別講義」を必修とします。

(3) 研究指導

【修士課程・博士後期課程】

各専攻学生は、入学後すみやかに研究題目を決め、その題目に応じて、指導教員1名を選ばねばなりません。詳細は、「龍谷大学大学院理工学研究科研究指導要領」を参照してください。

4. 修士論文・博士論文に求められる条件

【修士論文審査基準】

1) 論文テーマの妥当性	論文テーマの設定については社会的要請を考慮にいとるとともに、研究についての学術的意義が明確であること。
2) 問題の適切性	テーマに沿って問題が適切に設定されていること。
3) 論理の一貫性	一貫した論理が展開されていること。

4) 研究方法	社会の要請する学術的或いは科学技術的課題に対し、与えられた条件の下で、その課題を分析し、解決に至る手順を示し、それを実行し、その結果を明瞭に表現したものであること。
5) 体裁	引用等が適切に処理され、学術論文としての体裁が整っていること。
6) 先行研究との関連性 (参考文献の適切性)	テーマに関連する文献を詳細に調査し、それらを自己の観点から十分に分析していること。
7) 独創性（新規性）	テーマや問題設定、研究方法、結論等に独創性が認められること。
8) 専門性	社会の要請する学術的或いは科学技術的課題に対し、当該分野の高度な専門知識を駆使したものであること。
9) 広汎性	社会の要請する学術的或いは科学技術的課題に対し、関連する分野の幅広い基礎知識を駆使したものであること。
10) 資質	広い視野を備える清深な学識とその専攻分野における研究能力または高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を有することを立証するに足るものであること。
11) その他	2年間広い視野に立って専攻分野の研究をした成果に相当するものであること。

【博士論文審査基準】

1) 論文テーマの妥当性	論文テーマの設定については社会的要請を考慮にいととも、研究についての学術的意義が明確であること。
2) 問題の適切性	テーマに沿って問題が適切に設定されていること。
3) 論理の一貫性	一貫した論理が展開されていること。
4) 研究方法	社会の要請する学術的或いは科学技術的課題に対し、与えられた条件の下で、その課題を詳細に分析し、解決に至る手順を明確に示し、それを広範に実行していること。また、その結果を当該分野だけでなく関連分野の専門家が充分納得するレベルで表現したものであること。
5) 体裁	引用等が適切に処理され、学術論文としての体裁が整っていること。
6) 先行研究との関連性 (参考文献の適切性)	テーマに関連する文献を詳細に調査し、それらを自己の観点から十分に分析していること。
7) 独創性（新規性）	テーマや問題設定、研究方法、結論等に他に類を見ない高度の独創性が認められること。
8) 専門性	社会の要請する学術的或いは科学技術的課題に対し、当該分野について非常に高度な専門知識を駆使したものであること。
9) 広汎性	社会の要請する学術的或いは科学技術的課題に対し、関連する分野の非常に幅広い基礎知識および専門知識を駆使したものであること。
10) 資質	広い視野を備える清深な学識とその専攻分野における非常に高度な研究能力を有することを立証するに足るものであること。
11) その他	博士後期課程（3年間）在学中に広い視野に立って専攻分野の研究をした成果に相当するものであること。

5. 修士論文・博士論文等の提出日程、提出書類

(1) 提出日程

【修士論文】

1) 3月修了者

- ・研究題目届・指導教員選定届提出 1年次4月上旬
- ・修士論文審査願提出 ※正および副の審査員選定 2年次12月上旬
- ・修士論文提出 1月下旬
- ・修士論文審査、公聴会 2月中旬

2) 9月修了者

- ・研究題目届・指導教員選定届提出 1年次4月上旬
- ・修士論文審査願提出 ※正および副の審査員選定 2年次6月中旬
- ・修士論文提出 7月中旬
- ・修士論文審査、公聴会 7月下旬～8月

【博士論文】

1) 3月修了者

- ・研究題目届・指導教員選定届提出 1年次4月上旬
- ・博士論文審査願、博士論文概要提出 3年次12月上旬
- ・学位申請書、博士論文、論文要旨、(参考論文)、履歴書提出 1月上旬
- ・博士論文審査、公聴会、口述試験 2月中旬

2) 9月修了者

- ・研究題目届・指導教員選定届提出 1年次4月上旬
- ・博士論文概要、博士論文審査願提出 修了年次6月上旬
- ・博士論文、学位申請書、論文要旨、(参考論文)、履歴書提出 7月上旬
- ・博士論文審査、公聴会、口述試験 7月下旬～8月

(2) 提出書類

【修士論文】

1) 研究題目届・指導教員選定届

入学後、「研究題目届・指導教員選定届」に研究題目及び指導教員を記入して、所定の期日までに理工学部教務課に届け出なければなりません。

なお、研究題目・指導教員を変更するときは、「理工学研究科（研究題目・指導教員）変更願出書」を提出してください。

2) 修士論文審査願

修士論文を提出する者は、「修士論文審査願」を、所定の期日までに届け出てください。

3) 修士論文及び概要（要旨）

修士論文を提出するときは、下記の①～③を取り揃えて提出してください。

【修士論文】

- ①修士論文…………… 保管用1部、審査用2部
- ②表紙…………… 1部（審査用2部については省略可）
- ③修士論文概要（要旨）…………… 和文、英文 各保管用1部、審査用2部

- ※ 1 提出する3部の冒頭に修士論文概要を日本文、英文の順に綴じてください。保管用1部は大学が製本するため、散逸しないようにダブルクリップ等で綴じ、そのまま製本できる状態にしておいてください。審査用2部は教務課が指定するファイルに綴じ、表紙及び背表紙に専用のタックシールを貼付の上、提出してください。タックシールは理工学部教務課において1月中旬に配付します。
- ※ 2 修士論文概要（要旨）に写真やグラフを掲載する学生は、紙媒体での提出の他、修士論文概要（要旨）のデータを提出してください。提出方法については別途指示します。
- ※ 3 詳細は各専攻の指示に従ってください。

【博士論文】

1) 研究題目届・指導教員選定届

入学後、「研究題目届・指導教員選定届」に研究題目及び指導教員を記入して、所定の期日までに理工学部教務課に届け出てください。

なお、研究題目・指導教員を変更するときは、「指導教員並びに研究題目変更届」を提出してください。

2) 博士論文審査願及び博士論文概要

博士論文を提出する者は、「博士論文審査願」及び「博士論文概要」を、所定の期日までに提出してください。

3) 博士論文、論文要旨、学位申請書、参考論文（必要に応じて提出）、履歴書

博士論文を提出するときは、下記の①～⑤を取り揃えて提出してください。

【博士論文】

- ①学位申請書…………… 1部
- ②博士論文…………… 保管用3部、審査用5部
- ③博士論文要旨…………… 日本語・英語 各3部
- ④参考論文（必要に応じて提出）…………… 各3部
- ⑤履歴書…………… 履歴書…………… 3部

（3）様式等

【修士論文】

修士論文審査願	・理工学研究科の統一様式を使用する。
修士論文	・用紙サイズはA4縦型（横書き）とする。 ・修士論文（本文）の枚数は40頁程度とする。 ・全てワープロ等の印刷によるものとする。 ・その他、詳細は各専攻の指示に従うこと。
修士論文概要 （要旨）	・各専攻の指示に従って作成すること。

【博士論文】

博士論文審査願	・理工学研究科の統一様式を使用する。
博士論文	・博士論文は指導教員の指導とその同意のもとに作成する。 ・表紙は理工学研究科の統一様式を使用する。 ・背表紙は、原則として日本語は縦書き、英語は横書きとし、その他は申請者に委ねる。 ・保管用3部は、国立国会図書館および本学図書館保管用であるので、申請者において製本したうえで提出すること。提出は公聴会ののちとすることができる。ただし、公聴会后、速やかに提出すること。 ※製本代金（保管用3部）は理工学部教務課にて支出するので、領収書または請求書・納品書を2月末日までに理工学部教務課に提出すること。 ・審査用5部は紙ファイル綴じとする。
博士論文概要	・4,000字以下、A4用紙5枚以内とする。 ・用いる言語は、原則として日本語とし、副として必要に応じて英語も可とする。 ・論文の構成がわかる目次的なものを付けることとし、図の掲載も可とする。
博士論文要旨	・博士論文に載せる要旨は日本語、英語をそれぞれ作成すること。

6. 修士・博士学位審査の概要

【修士論文】

1) 論文の申請（論文の提出資格）

龍谷大学大学院理工学研究科の修士課程学生で、その所属する専攻所定の修士課程授業科目を所定の履修方法によって履修し、課程修了に必要な32単位以上を取得した者、または取得見込みの者は、所定の手続きにより所定の期日までに修士論文の審査願を提出の上、修士論文を提出することができます。

2) 論文の受理

論文の提出資格を持つ者は、修士論文の様式を具備した論文および修士論文概要（要旨）を所定の日時までに提出する必要があります。提出された修士論文は、理工学研究科委員会の議を経て、学長が受理します。

3) 論文の審査及び最終試験

修士論文の審査は、修士論文提出者の所属する専攻ごとに、修士課程の特別研究担当の研究科専任教員を含む2名以上の審査員によって行われます。また、修士論文の審査には、口述試験が課されます。

4) 研究科の合否判定

修士論文は、2年間広い視野に立って専攻分野の研究をした成果に相当するものでなければなりません。修士論文は社会の要請する学術或いは科学技術的課題に対し、当該分野の高度な専門知識および関連分野の幅広い基礎知識を駆使し、与えられた条件の下で、その課題を分析し、解決に至る手順を示し、それを実行し、その結果を明瞭に表現したものでなければなりません。修士論文の合否は、論文の内容ならびに口述試験の結果によって判断されます。

【博士論文】

1) 論文の申請

龍谷大学大学院理工学研究科の博士後期課程学生で、その所属する専攻所定の博士後期課程授業科目を所定の履修方法によって履修し、課程修了に必要な12単位以上をその学年度までに取得した者、または取得見込の者は、所定の手続きにより所定の期日までに博士論文の審査願を提出の上、博士論文を提出することができます。また、本研究科の博士後期課程に所定の修業年限以上在学し、所定の単位を修得して退学した者が、博士の学位の授与を申請するときは、退学後3年以内に限り、龍谷大学学位規程第3条第3項による学位としてあつかうものとします。

2) 論文の受理

論文の提出資格を持つ者は、学位申請書1部および論文、論文の要旨、参考論文のあるときは当該参考論文、履歴書、各3通を提出するとともに、所定の審査手数料を納付する必要があります。提出された博士論文は、本研究科委員会の議を経て、学長が受理します。

3) 論文の審査及び最終試験

論文の審査は、理工学研究科委員会が選ぶ論文提出者の所属する専攻の博士後期課程授業科目の担当教授および関連のある研究科授業担当教授3名以上の審査員によって行われます。ただし、本研究科委員会が必要と認めるときは、本研究科の授業担当の准教授、講師を審査員に入れることがあります。論文の審査には、口述試験が課され、5名の教員が試験を担当します。

4) 論文の合否判定

博士論文は、その専攻分野について、研究者・技術者として自立して研究・開発活動を行うに必要な高度の研究・開発能力およびその基礎となる豊かな学識を有することを立証するに足りるものでなければなりません。論文の合否は、理工学研究科委員会が審査員より当該論文の審査報告を受け、決定します。

7. 龍谷大学大学院理工学研究科修士課程・博士後期課程1年修了制

龍谷大学大学院理工学研究科では、2005年度より成績優秀な学生に対し在学期間を短縮できる制度を設けています。

1. 修士課程1年修了制

本学理工学部での成績が優秀な学生に対しては推薦入試制度があり、その推薦される学生の中からさらに優秀な学生に対しては、修士を最短1年で修了する制度が適用されます。

学内推薦入学試験を受験し、理工学研究科に合格した学生は、学部4年のときに大学院の科目を最大10単位まで受講することが可能で、大学院に入学後単位認定がなされます。この10単位をすべて修得し、修士1年のときに科目6単位と演習Ⅰ・Ⅱ、特別研究および修士論文の審査に合格すれば、最短1年で修士を修了することができます。ただし、結果が不十分であれば、1.5年ないしは2年になることもあり得ます。

この制度は成績優秀な学生に対して、大学院への進学を促し、さらなる向学心の向上を期待して設けられたものです。修士課程の期間が半分になるというよりは、学部4年から修士の研究活動が始まり、学部と修士課程をあわせ6年間かかるところを5年間に短縮する制度です。

2. 博士後期課程1年修了制

博士前期課程あるいは修士課程を修了し、その後社会人として研究業績を積み、博士の学位取得を希望するものを主な対象として、博士号の取得を短期でできるように支援するものです。

希望者は入学後、「高度専門研究特別講義（2単位）」の科目登録をし、それに合格することが条件です。その後、学位論文を完成して審査を受けることになります。審査に合格すれば、最短1年で課程を修了し、学位を取得することができます。ただし、入学時に1年修了を約束するものではありません。1.5年ない

しは2年、あるいはそれ以上になる場合もあります。

博士前期課程あるいは修士課程を修了していないものは、事前の審査を受けて、修士相当であることを認定する制度があります。認定者は前記に従って博士後期課程1年修了制の適用を受けることができます。

なお、特例で博士前期課程あるいは修士課程を2年未満で修了したものは、最短でも2年の在学期間が必要です。

8. 論文博士

本学に学位論文を提出し、本学大学院の行うその論文の審査に合格し、かつ大学院の博士課程修了者と同等以上の学力を有することを確認された者に授与されます。

Ⅱ 履修方法および開設科目

1. 履修方法

1) 修業年限

- | | |
|------------|----------|
| (1) 修士課程 | 2年以上5年まで |
| (2) 博士後期課程 | 3年以上6年まで |

2) 学期

- | | |
|------|----------------|
| 第1学期 | 4月1日から9月30日まで |
| 第2学期 | 10月1日から3月31日まで |

3) 履修方法

(1) 修士課程

①数理情報学専攻、電子情報学専攻、機械システム工学専攻、情報メディア学専攻、環境ソリューション工学専攻

- | | |
|------|---|
| 特 論 | 16単位以上（なお、各専攻ごとの開設科目表中の他専攻教員の担当する科目（以下「他専攻科目」）を、専攻ごとに別に定める上限（※）まで、修了要件単位とすることができます） |
| 演 習 | 8単位（指導教員の担当する演習Ⅰおよび演習Ⅱ計8単位を修得すること） |
| 特別研究 | 8単位（2年間にわたり8単位を修得すること） |
| 修了要件 | 上記履修方法により、計32単位以上を修得するとともに、特別研究の成果を修士論文として提出し、その審査に合格しなければなりません。 |

②物質化学専攻

- | | |
|------|--|
| 特 論 | 12単位以上（必修「共生学特論」2単位、他特論10単位以上（RUBeC演習Ⅰを含む）物質化学特論Ⅰ～Ⅳのうち1科目を必ず修得しなくてはなりません。なお、各専攻ごとの開設科目表中の他専攻教員の担当する特論（以下「他専攻科目」）を専攻ごとに別に定める上限（※）まで、修了要件単位とすることができます） |
| 演 習 | 12単位（「高度物質化学特論・演習」「高度物質化学実験・演習」、指導教員の担当する演習Ⅰおよび演習Ⅱを修得すること） |
| 特別研究 | 8単位（2年間にわたり8単位を修得すること） |
| 修了要件 | 上記履修方法により、計32単位以上を修得するとともに、特別研究の成果を修士論文として提出し、その審査に合格しなければなりません。 |

※他専攻科目の履修について

各専攻ごとの開設科目表中の他専攻科目については、各専攻ごとに以下の上限まで修了要件単位とすることができます。その上限をこえて履修した科目は随意科目とします。

数理情報学専攻	4科目8単位
電子情報学専攻	2科目4単位
機械システム工学専攻	4科目8単位
物質化学専攻	2科目4単位
情報メディア学専攻	4科目8単位
環境ソリューション工学専攻	4科目8単位

なお、他専攻科目を履修しようとする場合は、指導教員の承認を得なければなりません。

(2) 博士後期課程

修了要件 指導教員の指導により専攻する分野の特別研究12単位を修得しなければなりません。さらに指導教授の指示を受け特別講義を履修するものとし、博士論文を提出してその審査及び最終試験に合格しなければなりません。
なお、在学期間を短縮し修了する場合には、「高度専門研究特別講義」を必修とします。

3) 研究科委員会が特に必要と認めるときは、所定の単位のほかにその指定する科目（学部講義等）を履修しなければなりません。

4) 履修登録は、すべて自己の責任において行うこと。登録の不備や間違いが発見されたときは、当該科目は無効となります。

開設科目

(1) 修士課程〔数理情報学専攻〕 (2014年度以降入学生適用)

授 業 科 目 の 名 称		配当年次	単位数		担 当 教 員			備 考	
			必修	選択					
数理解析	多様体と力学系特論A	1・2		2	教授	理博	國府宏枝	2014年度不開講	
	多様体と力学系特論B	1・2		2					
	偏微分方程式特論A	1・2		2	教授	理博	森田善久	2014年度不開講	
	偏微分方程式特論B	1・2		2					
	大域解析特論A	1・2		2	教授	理博	四ツ谷晶二	2014年度不開講	
	大域解析特論B	1・2		2					
	計算機援用数学特論A	1・2		2	講師	博士(理学)	山岸義和	2014年度不開講	
	計算機援用数学特論B	1・2		2					
	関数解析特論A	1・2		2	教授	理博	松本和一郎	2014年度不開講	
	関数解析特論B	1・2		2					
	現象数理学特論A	1・2		2	森田善久ほか				
	現象数理学特論B	1・2		2				2014年度不開講	
応用数理	物性物理学特論	1・2		2	教授	理博	飯田晋司		
	理論物理学特論	1・2		2	講師	博士(理学)	樋口三郎		
	計算科学特論	1・2		2	教授	理博	池田勉		
	数理モデル特論	1・2		2	教授	博士(工学)	松木平淳太		
	数理学特論	1・2		2	講師	博士(情報学)	阪井一繁		
情報科学	ソフトウェア開発法特論	1・2		2	教授	工博	宇土顯彦	2014年度不開講	
	ソフトウェア理論特論	1・2		2					
	自然言語処理特論	1・2		2	教授	工博	馬青		
	視覚認知計算特論	1・2		2	講師	博士(工学)	高橋隆史		
	数理情報学特論	1・2		2	日詰明男、村田真樹			2014年度不開講	
	テクニカルライティング特論	1・2		2					
	数理情報学演習Ⅰ	1	4						
	数理情報学演習Ⅱ	2	4						
	数理情報学特別研究	1～2	8						
他 専 攻 科 目	応用数学特論	}			電子情報学専攻科目				
	電子情報数学特論								
	電子物性特論								
	情報通信工学特論								
	知能情報特論								
	電子ディスプレイ特論								
	光学特論								
	オートマトン理論特論								
	画像処理特論								
	パターン情報システム特論								
	情報通信システム特論								
	マイクロ波通信工学特論								
	生体システム特論								
	量子力学特論								
	電磁波計測特論								
	知能システム特論	}			機械システム工学専攻科目				
	機械力学特論								
	計算生体力学特論								
	熱流体工学特論								
	流体力学特論								
	RUBeC 演習Ⅰ		}			物質化学専攻科目			随意科目
	RUBeC 演習Ⅱ								
	パターン情報特論	}			情報メディア学専攻科目				
	ソフトウェア開発特論								
	情報環境特論								
	知的情報処理特論								
	メディア処理特論								
	ソフトウェア科学特論								
	言語情報処理特論								
	メディア構成特論								
	音楽情報処理特論								
	ヒューマンインタフェース特論								
	音声・音響信号処理特論								
	環境システム解析学特論	}			環境ソリューション工学専攻科目				
	理論生態学特論A								
	理論生態学特論B								

注意：他専攻科目の配当年次・単位数・担当教員等は当該専攻のページを参照すること。

開設科目

(1) 修士課程〔数理情報学専攻〕 (2012・2013年度入学生適用)

授 業 科 目 の 名 称		配当年次	単位数		担 当 教 員			備 考
			必修	選択				
数理解析	多様体と力学系特論A	1・2		2	教授	理博	國府宏枝	2014年度不開講
	多様体と力学系特論B	1・2		2				
	偏微分方程式特論A	1・2		2	教授	理博	森田善久	2014年度不開講
	偏微分方程式特論B	1・2		2				
	大域解析特論A	1・2		2	教授	理博	四ツ谷晶二	2014年度不開講
	大域解析特論B	1・2		2				
	計算機援用数学特論A	1・2		2	講師	博士(理学)	山岸義和	2014年度不開講
	計算機援用数学特論B	1・2		2				
	関数解析特論A	1・2		2	教授	理博	松本和一郎	2014年度不開講
	関数解析特論B	1・2		2				
	現象数理科学特論A	1・2		2	森田善久ほか			
	現象数理科学特論B	1・2		2				2014年度不開講
応用数理	物性物理学特論	1・2		2	教授	理博	飯田晋司	
	理論物理学特論	1・2		2	講師	博士(理学)	樋口三郎	
	計算科学特論	1・2		2	教授	理博	池田勉	
	数理モデル特論	1・2		2	教授	博士(工学)	松木平淳太	
	数理科学特論	1・2		2	講師	博士(情報学)	阪井一繁	
情報科学	ソフトウェア開発法特論	1・2		2	教授	工博	宇土顯彦	2014年度不開講
	ソフトウェア理論特論	1・2		2				
	自然言語処理特論	1・2		2	教授	工博	馬青	
	視覚認知計算特論	1・2		2	講師	博士(工学)	高橋隆史	
	数理情報学特論	1・2		2	日詰明男、村田真樹			2014年度不開講
	テクニカルライティング特論	1・2		2				
	数理情報学演習Ⅰ	1	4					
	数理情報学演習Ⅱ	2	4					
	数理情報学特別研究	1～2	8					
他 専 攻 科 目	応用数学特論					電子情報学専攻科目		
	電子情報数学特論							
	電子物性特論							
	情報通信工学特論							
	知能情報特論							
	電子ディスプレイ特論							
	光学特論							
	オートマトン理論特論							
	画像処理特論							
	パターン情報システム特論							
	情報通信システム特論							
	マイクロ波通信工学特論							
	生体システム特論					機械システム工学専攻科目		
	知能システム特論							
	機械力学特論							
	計算生体力学特論							
	熱流体工学特論							
	流体力学特論							
	RUBeC 演習Ⅰ					物質化学専攻科目		
	RUBeC 演習Ⅱ							
	パターン情報特論					情報メディア学専攻科目		
	ソフトウェア開発特論							
	情報環境特論							
	知的情報処理特論							
	メディア処理特論							
	ソフトウェア科学特論							
	言語情報処理特論							
	メディア構成特論							
	音楽情報処理特論							
	ヒューマンインタフェース特論							
	音声・音響信号処理特論							
	環境システム解析学特論					環境ソリューション工学専攻科目		

注意：他専攻科目の配当年次・単位数・担当教員等は当該専攻のページを参照すること。

[数理情報学専攻] (2011年度入学生適用)

授 業 科 目 の 名 称		配当年次	単位数		担 当 教 員			備 考	
			必修	選択					
数理解析	多様体と力学系特論A	1・2		2	教授	理博	國府宏枝	2014年度不開講	
	多様体と力学系特論B	1・2		2					
	偏微分方程式特論A	1・2		2	教授	理博	森田善久	2014年度不開講	
	偏微分方程式特論B	1・2		2					
	大域解析特論A	1・2		2	教授	理博	四ツ谷晶二	2014年度不開講	
	大域解析特論B	1・2		2					
	計算機援用数学特論A	1・2		2	講師	博士(理学)	山岸義和	2014年度不開講	
	計算機援用数学特論B	1・2		2					
	関数解析特論A	1・2		2	教授	理博	松本和一郎 森田善久ほか	2014年度不開講	
	関数解析特論B	1・2		2					
	現象数理学特論A	1・2		2					
	現象数理学特論B	1・2		2				2014年度不開講	
応用数理	物性物理学特論	1・2		2	教授	理博	飯田晋司		
	理論物理学特論	1・2		2	講師	博士(理学)	樋口三郎		
	計算科学特論	1・2		2	教授	理博	池田勉		
	数理モデル特論	1・2		2	教授	博士(工学)	松木平淳太		
	数理学特論	1・2		2	講師	博士(情報学)	阪井一繁		
情報科学	ソフトウェア開発法特論	1・2		2	教授	工博	宇土顯彦	2014年度不開講	
	ソフトウェア理論特論	1・2		2					
	自然言語処理特論	1・2		2	教授	工博	馬青		
	視覚認知計算特論	1・2		2	講師	博士(工学)	高橋隆史		
	数理情報学特論	1・2		2	日詰明男、村田真樹				
	数理情報学演習Ⅰ	1	4						
	数理情報学演習Ⅱ	2	4						
	数理情報学特別研究	1～2	8						
他 専 攻 科 目	応用数学特論				電子情報学専攻科目				
	電子情報基礎特論								
	電子物性特論								
	情報通信工学特論								
	知能情報特論								
	電子ディスプレイ特論								
	光学特論								
	オートマトン理論特論								
	画像処理特論								
	計算機システム特論								
	パターン情報システム特論								
	情報通信システム特論								
	マイクロ波通信工学特論								
	生体システム特論								
	知能システム特論				機械システム工学専攻科目				
	機械力学特論								
	熱流体工学特論								
	流体力学特論								
	RUBeC 演習Ⅰ					物質化学専攻科目			随意科目
	RUBeC 演習Ⅱ								
	パターン情報特論				情報メディア学専攻科目				
	ソフトウェア開発特論								
	情報環境特論								
	知的情報処理特論								
	メディア処理特論								
	ソフトウェア科学特論								
	言語情報処理特論								
	メディア構成特論								
	音楽情報処理特論								
	ヒューマンインタフェース特論								
	情報メディア学特論								
	環境システム解析学特論					環境ソリューション工学専攻科目			

注意：他専攻科目の配当年次・単位数・担当教員等は当該専攻のページを参照すること。

[電子情報学専攻] (2012年度以降入学生適用)

授 業 科 目 の 名 称		配当年次	単位数		担 当 教 員	備 考
			必修	選択		
電子工学	応用数学特論	1・2		2		2014年度不開講
	電子ディスプレイ特論	1・2		2	教授 工博 木村 睦	
	量子力学特論	1・2		2	教授 工博 山本 伸一	
	電子物性特論	1・2		2	教授 理博 海川 龍治	
	数値解析特論	1・2		2		2014年度不開講
	光学特論	1・2		2	教授 工博 斉藤 光徳	
電子通信工学	情報通信システム特論	1・2		2	教授 工博 中村 奉夫	
	マイクロ波通信工学特論	1・2		2	教授 工博 石崎 俊雄	
	電磁波計測特論	1・2		2	講師 工博 張 陽軍	
情報通信工学	パターン情報システム特論	1・2		2		2014年度不開講
	オートマトン理論特論	1・2		2		2014年度不開講
	画像処理特論	1・2		2	講師 工博 川上 肇	
	知能情報特論	1・2		2	教授 理博 木村 昌弘	
	情報通信工学特論	1・2		2	講師 工博 植村 渉	
	生体システム特論	1・2		2		2014年度不開講
	科学技術英語特論・演習	1・2		2	里井 久輝 ほか	
	テクニカルライティング特論	1・2		2		2014年度不開講
	電子情報数学特論	1・2		2	講師 博士(理学) 中川 晃成	
	電子情報学演習Ⅰ	1	4			
	電子情報学演習Ⅱ	2	4			
	電子情報学特別研究	1～2	8			
他 専 攻 科 目	物性物理学特論				数理情報学専攻科目	
	計算科学特論					
	数理モデル特論					
	視覚認知計算特論					
	数理科学特論					
	ソフトウェア開発法特論					
	ソフトウェア理論特論					
	自然言語処理特論					
	ロボット工学特論				機械システム工学専攻科目	
	知能制御特論					
	知能システム特論					
	材料物性特論					
	計算生体力学特論					
	RUBeC 演習Ⅰ				物質化学専攻科目	
	RUBeC 演習Ⅱ					随意科目
	パターン情報特論				情報メディア学専攻科目	
	情報環境特論					
	知的情報処理特論					
	音楽情報処理特論					
	ヒューマンインタフェース特論					
	音声・音響信号処理特論					

注意：他専攻科目の配当年次・単位数・担当教員等は当該専攻のページを参照すること。

[機械システム工学専攻] (2014年度以降入学生適用)

授 業 科 目 の 名 称		配当年次	単位数		担 当 教 員	備 考
			必修	選択		
力学系	材料強度・解析学特論	1・2		2	教授 博士(工学) 辻 上 哲 也	2014年度不開講
	材料強度・設計特論	1・2		2		
	機械力学特論	1・2		2	教授 工博 金 子 康 智	
	計算生体力学特論	1・2		2	講師 博士(工学) 田 原 大 輔	
エネルギー系	エネルギー工学特論	1・2		2	講師 博士(工学) 野 口 佳 樹	
	熱流体工学特論	1・2		2	教授 博士(工学) 塩 見 洋 一	
	流体力学特論	1・2		2	准教授 博士(工学) 大 津 広 敬	
システム系	材料物性特論	1・2		2	講師 博士(工学) 森 正 和	2014年度不開講
	材料・加工特論	1・2		2	教授 工博 河 嶋 壽 一	
	ロボット工学特論	1・2		2	教授 博士(工学) 渋谷 恒 司	
	知能制御特論	1・2		2	教授 工博 岩 本 太 郎	
	知能システム特論	1・2		2		
	計測システム特論	1・2		2	教授 博士(理学) 左 近 拓 男	
	機械システム工学演習Ⅰ	1	4			
	機械システム工学演習Ⅱ	2	4			
	機械システム工学特別研究	1～2	8			
他 専 攻 科 目	物性物理学特論	}				数理情報学専攻科目
	計算科学特論					
	応用数学特論	}				電子情報学専攻科目
	電子物性特論					
	無機機能材料化学特論	}				物質化学専攻科目
	材料物性測定学特論					
	RUBeC 演習Ⅰ					
	RUBeC 演習Ⅱ					
	パターン情報特論	}				情報メディア学専攻科目
	音楽情報処理特論					
	ヒューマンインタフェース特論					
	音声・音響信号処理特論					
	廃棄物工学特論	}				環境ソリューション工学専攻科目
	水道工学特論					
	水域水質管理学特論A					
	水域水質管理学特論B					

注意：他専攻科目の配当年次・単位数・担当教員等は当該専攻のページを参照すること。

[機械システム工学専攻] (2012・2013年度入学生適用)

授 業 科 目 の 名 称		配当年次	単位数		担 当 教 員	備 考
			必修	選択		
力学系	材料強度・解析学特論	1・2		2	教授 博士(工学) 辻 上 哲 也	2014年度不開講
	材料強度・設計特論	1・2		2		
	機械力学特論	1・2		2	教授 工博 金 子 康 智	2014年度不開講
	応用力学特論	1・2		2		
	計算生体力学特論	1・2		2	講師 博士(工学) 田 原 大 輔	
エネルギー系	エネルギー工学特論	1・2		2	講師 博士(工学) 野 口 佳 樹	
	熱流体工学特論	1・2		2	教授 博士(工学) 塩 見 洋 一	
	流体力学特論	1・2		2	准教授 博士(工学) 大 津 広 敬	
システム系	材料物性特論	1・2		2	講師 博士(工学) 森 正 和	2014年度不開講
	材料・加工特論	1・2		2	教授 工博 河 嶋 壽 一	
	ロボット工学特論	1・2		2	教授 博士(工学) 渋谷 恒 司	
	知能制御特論	1・2		2	教授 工博 岩 本 太 郎	
	知能システム特論	1・2		2		
	計測システム特論	1・2		2	教授 博士(理学) 左 近 拓 男	
	機械システム工学演習Ⅰ	1	4			
	機械システム工学演習Ⅱ	2	4			
	機械システム工学特別研究	1～2	8			
他 専 攻 科 目	物性物理学特論	}				数理工学専攻科目
	計算科学特論					
	応用数学特論	}				電子情報学専攻科目
	電子物性特論					
	無機機能材料化学特論	}				物質化学専攻科目
	材料物性測定学特論					
	RUBeC 演習Ⅰ					
	RUBeC 演習Ⅱ					
	パターン情報特論	}				情報メディア学専攻科目
	音楽情報処理特論					
	ヒューマンインタフェース特論					
	音声・音響信号処理特論					
	廃棄物工学特論	}				環境ソリューション工学専攻科目
	水道工学特論					
	水域水質管理学特論A					
	水域水質管理学特論B					

注意：他専攻科目の配当年次・単位数・担当教員等は当該専攻のページを参照すること。

[物質化学専攻] (2012年度以降入学生適用)

授 業 科 目 の 名 称		配当年次	単位数		担 当 教 員	備 考
			必修	選択		
物質評価系	分析科学特論	1・2		2	教授 工博 藤原 学	2014年度不開講 2014年度不開講
	生物化学特論	1・2		2	教授 博士(理学) 宮武智弘	
	材料物性測定学特論	1・2		2	講師 博士(理学) 白神達也	
	環境科学特論	1・2		2		
	電気化学特論	1・2		2		
無機材料系	固体電子構造化学特論	1・2		2	教授 工博 和田隆博	2014年度不開講
	固体化学特論	1・2		2		
	無機機能材料化学特論	1・2		2	教授 博士(工学) 青井芳史	
有機・高分子材料系	有機合成化学特論	1・2		2	准教授 博士(理学) 岩澤哲郎	
	有機機能材料化学特論	1・2		2	内田欣吾ほか	
	高分子材料工学特論	1・2		2	教授 博士(理学) 中沖隆彦	
	高分子物理化学特論	1・2		2	教授 工博 林久夫	
	生物機能化学特論	1・2		2	教授 博士(工学) 富崎欣也	
	共生学特論	1・2	2		大柳満之ほか	2014年度不開講 2014年度不開講 随意科目 2014年度不開講
	英語プレゼンテーション特論Ⅰ	1・2		2	教授 イエニクS.C.	
	英語プレゼンテーション特論Ⅱ	1・2		2	教授 イエニクS.C.	
	物質化学特論Ⅰ (プロジェクト企画特論Ⅰ)	1・2		2	内田欣吾ほか	
	物質化学特論Ⅱ	1・2		2	兼任教員 博士(工学) 野々村千里ほか	
	物質化学特論Ⅲ	1・2		2		
	物質化学特論Ⅳ	1・2		2		
	高度物質化学特論・演習	1・2	2		大柳満之ほか	
	高度物質化学実験・演習	1・2	2		中沖隆彦ほか	
	RUBeC演習Ⅰ	1・2		4	大柳満之ほか	
	RUBeC演習Ⅱ	1・2		④	大柳満之ほか	
	テクニカルライティング特論	1・2		2		
	物質化学演習Ⅰ	1	4			
	物質化学演習Ⅱ	2	4			
	物質化学特別研究	1～2	8			
他 専 攻 科 目	材料物性特論	}				機械システム工学専攻科目
	計測システム特論					
	材料強度・解析学特論					
	廃棄物工学特論	}				環境ソリューション工学専攻科目
	水道工学特論					
	下水道工学特論					
	水域水質管理学特論A					
	水域水質管理学特論B					
	環境システム解析学特論					
	水処理工学特論					
	環境微生物工学特論					
	地域循環資源処理工学特論					
	生物圏資源循環工学特論					

注意：他専攻科目の配当年次・単位数・担当教員等は当該専攻のページを参照すること。

[情報メディア学専攻] (2014年度以降入学生適用)

授 業 科 目 の 名 称		配当年次	単位数		担 当 教 員	備 考
			必修	選択		
情報システム	情報環境特論	1・2		2	教授 博士(情報学) 外村佳伸	
	情報システム特論	1・2		2	教授 博士(工学) 長谷智弘	
	音楽情報処理特論	1・2		2	講師 博士(工学) 三浦雅展	
メディア工学	パターン情報特論	1・2		2	教授 工博 岡田至弘	
	メディア処理特論	1・2		2	教授 博士(学術) 藤田和弘	
	メディア構成特論	1・2		2	講師 博士(情報学) 渡辺靖彦	
	ヒューマンインタフェース特論	1・2		2	兼任教員 博士(学術) 木村敏幸	
	コンピュータグラフィックス特論	1・2		2	講師 博士(学術) 曾我麻佐子	
	音声・音響信号処理特論	1・2		2	教授 博士(工学) 片岡章俊	
ソフトウェア科学	ソフトウェア開発特論	1・2		2	教授 博士(システムズ・マネジメント) 新川芳行	
	知的情報処理特論	1・2		2	教授 博士(工学) 三好力	
	ソフトウェア科学特論	1・2		2	教授 博士(工学) 野村竜也	
	言語情報処理特論	1・2		2	准教授 博士(工学) 吉見毅彦	
	テクニカルライティング特論	1・2		2		2014年度不開講
	情報メディア学演習Ⅰ	1	4			
	情報メディア学演習Ⅱ	2	4			
	情報メディア学特別研究	1・2	8			
他専攻科目	計算科学特論	}				数理情報学専攻科目
	自然言語処理特論					
	ソフトウェア理論特論					
	オートマトン理論特論	}				電子情報学専攻科目
	計算機システム特論					
	情報通信システム特論					
	電子ディスプレイ特論					
	知能システム特論					機械システム工学専攻科目
	RUBeC演習Ⅰ	}				物質化学専攻科目
	RUBeC演習Ⅱ					

注意：他専攻科目の配当年次・単位数・担当教員等は当該専攻のページを参照すること。

[情報メディア学専攻] (2012・2013年度入学生適用)

授 業 科 目 の 名 称	配当年次	単位数		担 当 教 員	備 考
		必修	選択		
情報システム	情報環境特論	1・2	2	教授 博士(情報学) 外村佳伸	
	情報システム特論	1・2	2	教授 博士(工学) 長谷智弘	
	音楽情報処理特論	1・2	2	講師 博士(工学) 三浦雅展	
メディア工学	パターン情報特論	1・2	2	教授 工博 岡田至弘	
	メディア処理特論	1・2	2	教授 博士(学術) 藤田和弘	
	メディア構成特論	1・2	2	講師 博士(情報学) 渡辺靖彦	
	ヒューマンインタフェース特論	1・2	2	兼任教員 博士(学術) 木村敏幸	
	コンピュータグラフィックス特論	1・2	2	講師 博士(学術) 曾我麻佐子	
	音声・音響信号処理特論	1・2	2	教授 博士(工学) 片岡章俊	
ソフトウェア科学	ソフトウェア開発特論	1・2	2	教授 博士(システムズ・マネジメント) 新川芳行	
	知的情報処理特論	1・2	2	教授 博士(工学) 三好力	
	ソフトウェア科学特論	1・2	2	教授 博士(工学) 野村竜也	
	言語情報処理特論	1・2	2	准教授 博士(工学) 吉見毅彦	
	テクニカルライティング特論	1・2	2		2014年度不開講
	情報メディア学演習Ⅰ	1	4		
	情報メディア学演習Ⅱ	2	4		
	情報メディア学特別研究	1・2	8		
他専攻科目	計算科学特論			} 数理情報学専攻科目	
	自然言語処理特論				
	ソフトウェア理論特論				
	オートマトン理論特論			} 電子情報学専攻科目	
	計算機システム特論				
	情報通信システム特論				
	電子ディスプレイ特論				
	知能システム特論			機械システム工学専攻科目	

注意：他専攻科目の配当年次・単位数・担当教員等は当該専攻のページを参照すること。

[環境ソリューション工学専攻] (2014年度以降入学生適用)

授 業 科 目 の 名 称		配当年次	単位数 必修 選択	担 当 教 員			備 考
エ コ ロ ジ ー 工 学	廃棄物工学特論	1・2	2				2014年度不開講
	大気環境工学特論	1・2	2	教授	工博	市川陽一	
	水道工学特論	1・2	2	講師	博士(工学)	浅野昌弘	
	下水道工学特論	1・2	2				2014年度不開講
	水域水質管理学特論A	1・2	2				2014年度不開講
	水域水質管理学特論B	1・2	2	教授	工博	竺文彦	
	環境システム解析学特論	1・2	2				2014年度不開講
	水処理工学特論	1・2	2	教授	工博	岸本直之	
	環境微生物工学特論	1・2	2	准教授	工博	越川博元	
	地域循環資源処理工学特論	1・2	2				2014年度不開講
	生物圏資源循環工学特論	1・2	2				2014年度不開講
	資源利活用特論	1・2	2	教授	Ph. D	菊池隆之助	
生 態 環 境 マ ネ ジ メ ン ト	植物生理生態学特論	1・2	2	教授	Ph. D	レイ トーマス	
	動物生態学特論A	1・2	2	講師	理博	丸山 敦	
	動物生態学特論B	1・2	2				2014年度不開講
	生態系生態学特論	1・2	2				2014年度不開講
	森林生態学特論	1・2	2	教授	農博	宮浦富保	
	流域生態学特論A	1・2	2				2014年度不開講
	流域生態学特論B	1・2	2	教授	理博	遊磨正秀	
	保全生物学特論	1・2	2				2014年度不開講
	多様性生物学特論	1・2	2	准教授	農博	横田岳人	
	理論生態学特論A	1・2	2				2014年度不開講
	理論生態学特論B	1・2	2				2014年度不開講
	環境生態学特論A	1・2	2	講師	理博	山中裕樹	
	環境生態学特論B	1・2	2				2014年度不開講
	環境技術英語特論	1・2	2	教授	Ph. D	レイ トーマス	
	環境ソリューション工学特論Ⅰ	1・2	2				2014年度不開講
	環境ソリューション工学特論Ⅱ	1・2	2	教授	農博	宮浦富保ほか	
	環境ソリューション工学演習Ⅰ	1	4				
	環境ソリューション工学演習Ⅱ	2	4				
	環境ソリューション工学特別研究	1・2	8				
他 専 攻 科 目	偏微分方程式特論A			} 数理情報学専攻科目			
	偏微分方程式特論B						
	計算科学特論						
	数理モデル特論						
	応用数学特論			電子情報学専攻科目			
	エネルギー工学特論			} 機械システム工学専攻科目			
	流体力学特論						
	固体化学特論			} 物質化学専攻科目			
	分析科学特論						
	無機機能材料化学特論						
	生物化学特論						
	電気化学特論						
	RUBeC演習Ⅰ						
	RUBeC演習Ⅱ						

注意：他専攻科目の配当年次・単位数・担当教員等は当該専攻のページを参照すること。

授 業 科 目 の 名 称		配当年次	単位数		担 当 教 員			備 考
			必修	選択				
エコロジー工学	廃棄物工学特論	1・2		2				2014年度不開講
	大気環境工学特論	1・2		2	教授	工博	市川陽一	
	水道工学特論	1・2		2	講師	博士(工学)	浅野昌弘	
	下水道工学特論	1・2		2				2014年度不開講
	水域水質管理学特論A	1・2		2				2014年度不開講
	水域水質管理学特論B	1・2		2	教授	工博	竺文彦	
	環境システム解析学特論	1・2		2				2014年度不開講
	水処理工学特論	1・2		2	教授	工博	岸本直之	
	環境微生物工学特論	1・2		2	准教授	工博	越川博元	
	地域循環資源処理工学特論	1・2		2				2014年度不開講
	生物圏資源循環工学特論	1・2		2				2014年度不開講
	資源利活用特論	1・2		2	教授	Ph. D	菊池隆之助	
生態環境マネジメント	植物生理生態学特論	1・2		2	教授	Ph. D	レイ トーマス	
	動物生態学特論A	1・2		2	講師	理博	丸山 敦	
	動物生態学特論B	1・2		2				2014年度不開講
	生態系生態学特論	1・2		2				2014年度不開講
	森林生態学特論	1・2		2	教授	農博	宮浦富保	
	流域生態学特論A	1・2		2				2014年度不開講
	流域生態学特論B	1・2		2	教授	理博	遊磨正秀	
	保全生物学特論	1・2		2				2014年度不開講
	多様性生物学特論	1・2		2	准教授	農博	横田岳人	
	理論生態学特論A	1・2		2				2014年度不開講
	理論生態学特論B	1・2		2				2014年度不開講
	環境技術英語特論	1・2		2	教授	Ph. D	レイ トーマス	
	環境ソリューション工学特論Ⅰ	1・2		2	教授	農博	宮浦富保ほか	
	環境ソリューション工学特論Ⅱ	1・2		2				2014年度不開講
	環境ソリューション工学演習Ⅰ	1	4					
	環境ソリューション工学演習Ⅱ	2	4					
	環境ソリューション工学特別研究	1・2	8					
他 専 攻 科 目	偏微分方程式特論A				} 数理情報学専攻科目			
	偏微分方程式特論B							
	計算科学特論							
	数理モデル特論							
	応用数学特論				電子情報学専攻科目			
	エネルギー工学特論				} 機械システム工学専攻科目			
	流体力学特論							
	固体化学特論				} 物質化学専攻科目			
	分析科学特論							
	無機機能材料化学特論							
	生物化学特論							
	電気化学特論							

注意：他専攻科目の配当年次・単位数・担当教員等は当該専攻のページを参照すること。

(2) 博士後期課程

[数理情報学専攻]

授 業 科 目 の 名 称	配当年次	単位数		担 当 教 員	備 考
		必修	選択		
数理解析特別研究	1～3	12		教授 理博 國府宏枝 教授 理博 松本和一郎 教授 理博 森田善久 教授 理博 四ツ谷晶二	
数理解析特別講義Ⅰ	1・2		2	教授 理博 國府宏枝 教授 理博 森田善久	
数理解析特別講義Ⅱ	1・2		2	教授 理博 松本和一郎 教授 理博 四ツ谷晶二	
応用数理特別研究	1～3	12		教授 理博 飯田晋司 教授 理博 池田勉 教授 博士(工学) 松本平淳太	
応用数理特別講義Ⅰ	1・2		2	教授 理博 飯田晋司 教授 理博 池田勉	
応用数理特別講義Ⅱ	1・2		2	教授 博士(工学) 松本平淳太	
情報科学特別研究	1～3	12		教授 工博 宇土顯彦 教授 工博 馬青 准教授 博士(理学) 中野浩	
情報科学特別講義Ⅰ	1・2		2	教授 工博 馬青	
情報科学特別講義Ⅱ	1・2		2	教授 工博 宇土顯彦 准教授 博士(理学) 中野浩	
高度専門研究特別講義	1～3		2		
理工学概論特別講義A	1～3		2		2014年度不開講
理工学概論特別講義B	1～3		2		2014年度不開講

[電子情報学専攻]

授 業 科 目 の 名 称	配当年次	単位数		担 当 教 員	備 考
		必修	選択		
電子情報基礎特別研究	1～3	12		教授 工博 木村睦 教授 工博 斉藤光徳 教授 工博 山本伸一	
電子情報基礎特別講義Ⅰ	1・2		2	教授 理博 海川龍治 教授 工博 木村睦 教授 工博 斉藤光徳 教授 工博 山本伸一	
電子情報基礎特別講義Ⅱ	1・2		2	教授 理博 海川龍治	
情報処理機構特別研究	1～3	12		教授 理博 木村昌弘 教授 工博 小堀聡	
情報処理機構特別講義Ⅰ	1・2		2	教授 理博 木村昌弘	
情報処理機構特別講義Ⅱ	1・2		2	教授 工博 小堀聡	
情報システム特別研究	1～3	12		教授 工博 石崎俊雄 教授 工博 中村奉夫	
情報システム特別講義Ⅰ	1・2		2	教授 工博 中村奉夫	
情報システム特別講義Ⅱ	1・2		2	教授 工博 石崎俊雄	
高度専門研究特別講義	1～3		2		
理工学概論特別講義A	1～3		2		2014年度不開講
理工学概論特別講義B	1～3		2		2014年度不開講

[機械システム工学専攻]

授 業 科 目 の 名 称	配当年次	単位数		担 当 教 員	備 考
		必修	選択		
力学特別研究	1～3	12		教授 工博 金子 康智	
力学特別講義Ⅰ	1・2	2		教授 博士(工学) 辻 上 哲 也	
力学特別講義Ⅱ	1・2	2		教授 博士(工学) 辻 上 哲 也	
エネルギー特別研究	1～3	12		教授 工博 金子 康智	
				教授 博士(工学) 塩 見 洋 一	
				准教授 博士(工学) 大 津 広 敬	
エネルギー特別講義Ⅰ	1・2	2		教授 博士(工学) 塩 見 洋 一	
エネルギー特別講義Ⅱ	1・2	2		准教授 博士(工学) 大 津 広 敬	
システム特別研究	1～3	12		教授 工博 岩 本 太 郎	
				教授 工博 河 嶋 壽 一	
				教授 博士(理学) 左 近 拓 男	
				教授 学術博 堤 一 義	2014 年度不開講
				教授 博士(工学) 洪 谷 恒 司	
システム特別講義Ⅰ	1・2	2		教授 工博 岩 本 太 郎	
				教授 学術博 堤 一 義	2014 年度不開講
				教授 博士(工学) 洪 谷 恒 司	
システム特別講義Ⅱ	1・2	2		教授 工博 河 嶋 壽 一	
				教授 博士(理学) 左 近 拓 男	
高度専門研究特別講義	1～3	2			
理工学概論特別講義A	1～3	2			2014 年度不開講
理工学概論特別講義B	1～3	2			2014 年度不開講

[物質化学専攻]

授 業 科 目 の 名 称	配当年次	単位数		担 当 教 員	備 考
		必修	選択		
物質評価法特別研究	1～3	12		教授 工博 藤 原 学	
				教授 博士(工学) 宮 武 智 弘	
物質評価法特別講義Ⅰ	1・2	2		教授 博士(工学) 宮 武 智 弘	
物質評価法特別講義Ⅱ	1・2	2		教授 工博 藤 原 学	
無機材料特別研究	1～3	12		教授 工博 大 柳 満 之	
				教授 工博 和 田 隆 博	
				教授 博士(工学) 青 井 芳 史	
無機材料特別講義Ⅰ	1・2	2		教授 工博 和 田 隆 博	
無機材料特別講義Ⅱ	1・2	2		教授 工博 大 柳 満 之	
				教授 博士(工学) 青 井 芳 史	
有機・高分子材料特別研究	1～3	12		教授 工博 内 田 欣 吾	
				教授 博士(工学) 富 崎 欣 也	
				教授 博士(理学) 中 沖 隆 彦	
				教授 工博 林 久 夫	
				准教授 博士(理学) 岩 澤 哲 郎	
有機・高分子材料特別講義Ⅰ	1・2	2		教授 工博 内 田 欣 吾	
				准教授 博士(理学) 岩 澤 哲 郎	
有機・高分子材料特別講義Ⅱ	1・2	2		教授 博士(工学) 富 崎 欣 也	
				教授 博士(理学) 中 沖 隆 彦	
				教授 工博 林 久 夫	
高度専門研究特別講義	1～3	2			
RUBeC 高度特別講義・演習Ⅰ	1～3	4		大柳満之ほか	
RUBeC 高度特別講義・演習Ⅱ	1～3	4		大柳満之ほか	随意科目
理工学概論特別講義A	1～3	2			2014 年度不開講
理工学概論特別講義B	1～3	2			2014 年度不開講

[情報メディア学専攻]

授 業 科 目 の 名 称	配当年次	単位数		担 当 教 員	備 考
		必修	選択		
ソフトウェア科学特別研究	1～3	12		教授 博士(システムズ・マネジメント) 新川 芳 行	
ソフトウェア科学特別講義Ⅰ	1・2		2	教授 博士(工学) 三 好 力 教授 博士(システムズ・マネジメント) 新川 芳 行	
ソフトウェア科学特別講義Ⅱ	1・2		2	教授 博士(工学) 三 好 力 教授 博士(工学) 野 村 竜 也	
情報システム特別研究	1～3	12		准教授 博士(工学) 吉 見 毅 彦	
情報システム特別講義Ⅰ	1・2		2	教授 博士(工学) 片 岡 章 俊	
情報システム特別講義Ⅱ	1・2		2	教授 博士(情報学) 外 村 佳 伸	
メディア工学特別研究	1～3	12		教授 博士(工学) 長 谷 智 弘	
メディア工学特別講義Ⅰ	1・2		2	教授 博士(工学) 片 岡 章 俊	
メディア工学特別講義Ⅱ	1・2		2	教授 博士(情報学) 外 村 佳 伸	
高度専門研究特別講義	1～3		2	教授 工博 岡 田 至 弘	
理工学概論特別講義A	1～3		2	教授 工博 岡 田 至 弘	2014 年度不開講
理工学概論特別講義B	1～3		2	教授 博士(学術) 藤 田 和 弘	2014 年度不開講

[環境ソリューション工学専攻]

授 業 科 目 の 名 称	配当年次	単位数		担 当 教 員	備 考
		必修	選択		
エコロジー工学特別研究	1～3	12		教授 工博 岸 本 直 之 教授 工博 竺 文 彦	
エコロジー工学特別講義Ⅰ	1・2		2	准教授 工博 越 川 博 之	
エコロジー工学特別講義Ⅱ	1・2		2	教授 工博 占 部 武 生 教授 工博 市 川 陽 一	
生態学特別研究	1～3	12		教授 Ph. D 菊 池 隆 之 助 教授 農博 宮 浦 富 保 教授 理博 遊 磨 正 秀	
生態学特別講義Ⅰ	1・2		2	教授 Ph. D レイ トーマス 准教授 理博 近 藤 倫 生	
生態学特別講義Ⅱ	1・2		2	准教授 農博 横 田 岳 人 教授 農博 宮 浦 富 保 教授 理博 遊 磨 正 秀	
高度専門研究特別講義	1～3		2		
理工学概論特別講義A	1～3		2		2014 年度不開講
理工学概論特別講義B	1～3		2		2014 年度不開講

Ⅲ 単位互換制度

龍谷大学は、明治大学及び広島大学と大学間交流に関する包括協定を結んでおり、本学理工学研究科は、明治大学大学院理工学研究科・先端数理科学研究科及び広島大学大学院理学研究科と単位互換に係る覚書を締結しています。

これにより本学理工学研究科の学生は明治大学大学院及び広島大学大学院の科目を受講することができます。合格した科目は「特論」として修了要件に含めることができ、上限10単位までが単位認定されます。出願時期、単位互換科目などの詳細は、理工学部教務課で確認してください。

Ⅳ 履修登録

1. 授業時間

本学における1回の授業時間は、90分です。なお、それぞれの授業時間を「講時」といいます。年間を通じて各講時の時間帯は次のとおりです。

	1 講時	2 講時	3 講時	4 講時	5 講時
開始時刻	9 : 20	11 : 05	13 : 35	15 : 20	17 : 00
終了時刻	10 : 50	12 : 35	15 : 05	16 : 50	18 : 30

2. 履修登録制度

履修登録とは、その学期に履修しようとする科目の授業を受けるための手続きです。この登録をしていなければ、仮にその授業に出席したとしても、試験を受けることや単位認定を受けることはできません。履修登録は、学修計画の基礎となるわけであり、登録が有効に行われるようすべて自分の責任において取り組まなければなりません。

3. 履修登録の注意事項

- ① 履修登録した授業科目でなければ、受講・受験・単位の修得はできません。
- ② 重複登録（同一時間帯に2科目以上履修登録すること）はできません。
- ③ 既に単位を修得した科目を再び履修登録することはできません。
- ④ 指定された履修登録日以後の変更・追加・取消は認めません。ただし、登録エラーがあった場合はこの限りではありません。
- ⑤ 時間割、教室、担当者等について変更が生じる場合があるので、随時理工学研究科掲示板で確認してください。
- ⑥ 履修登録にあたって、不明な点があれば、遠慮なく理工学部教務課窓口に相談してください。
- ⑦ Web履修登録画面から、定められた期日に必ず登録してください。

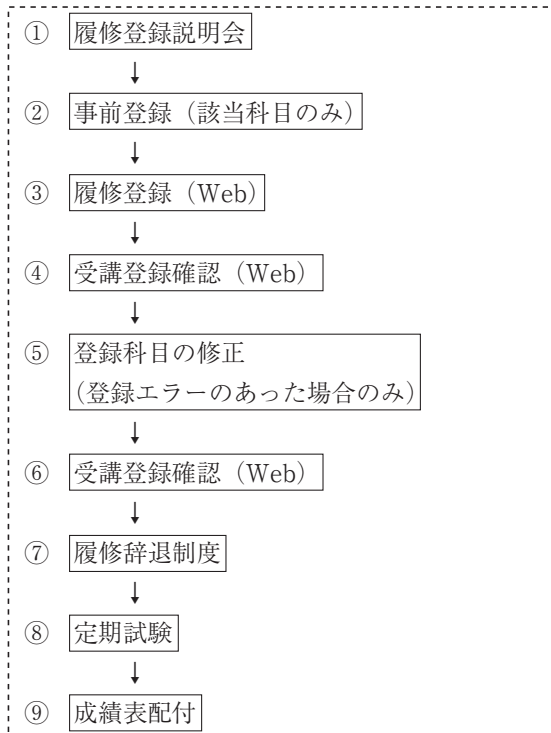
4. 履修登録手続のスケジュール

修士課程の学生は、前期に1年分の履修登録を行います。博士後期課程の学生は別途指示します。

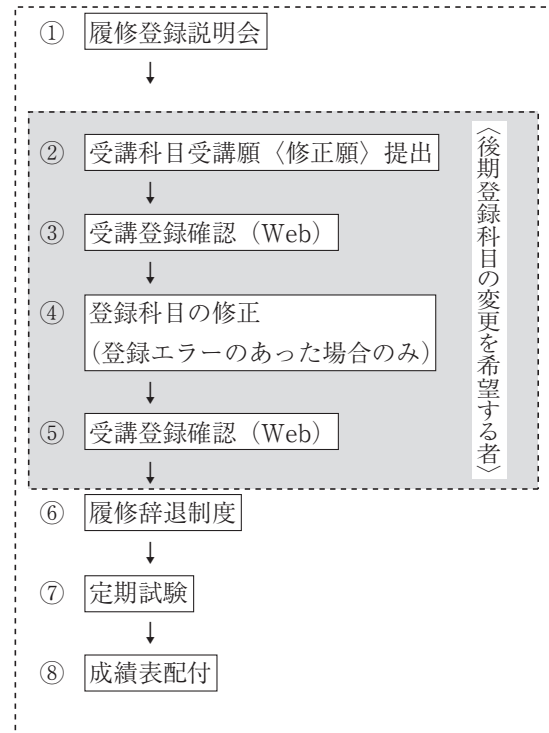
年1回登録	★前期：通年・前期・後期科目登録
	後期：後期科目の変更のみ受付

履修登録に関する手続きのスケジュールは次の頁のとおりです。

前期



後期



⚠ 注意事項

- 前期登録時は、その年度に履修しようとする全科目を登録してください。

5. 履修登録の確認

本人が登録した授業科目は、登録完了後、各自でその場で「受講登録確認表」を出力して確認することができますので、正しく登録されているかどうかを必ず確認してください。受講登録確認表について、不備もしくは質問がある場合は、ただちに、理工学部教務課窓口に出してください。

もし、確認せずに間違ったまま登録を放置しておくと、受講している科目が無効となるので注意すること。

6. 単位の認定

一つの授業科目に定められた所定の単位を修得するためには、次の3つの要件を満たしていなければなりません。

- ① 単位の認定を受けようとする科目について、**履修登録**をすること。
- ② その科目の授業に出席し、履修に必要な**学修**をすること。
- ③ その科目の**試験**を受け（レポート、論文等をもって試験とする場合等があり、必ずしも教室における筆記試験とは限らない。詳細はシラバスの成績の評価の方法で確認してください）、その成績評価で合格（60点以上）をすること。

7. 学部科目履修について

「龍谷大学大学院理工学研究科学生の学部科目履修に関する内規」に従い、履修することができます。履修登録日までに履修登録票（用紙は理工学部教務課）を提出し、許可を得なければなりません。

8. 履修辞退制度

※受講登録確認時に行う修正とは異なりますので、注意してください。

(1) 「履修辞退制度」とは

「履修辞退制度」とは、受講者が授業を受けてみたものの、『授業内容が学修したいものと著しく違っていた場合』や『受講者自身が授業について行ける状況にまったくない場合』など、やむを得ない理由がある場合に自分自身の判断で履修を辞退することができる制度のことです。

この制度は、履修登録確認表配付後の、登録不備によって修正が必要となる場合の「履修登録修正」とは異なり、履修登録がすべて確定した後に、上記のような理由によって受講者自身が定められた期間に履修辞退の申し出をすることができるものです。「履修登録修正」は登録情報を「修正や取消」するものであり、以前の履修は一切記録に残らない仕組みですが、「履修辞退」は、「履修登録」および「履修辞退」の履修が記録として残る仕組みです。

したがって、受講者のみなさんはこの「履修辞退制度」を安易に利用するのではなく、「履修要項」および「シラバス」を熟読して学修計画をしっかりと立て、慎重な履修登録をするよう十分留意する必要があります。

(2) 履修辞退による成績評価のあり方

本学が設定する履修辞退の申し出期間中に辞退を申し出た場合、当該授業科目の成績評価は行ないません。したがって、履修辞退した科目は平均点やGPAの計算対象から除外されるとともに、成績証明書への記載対象からも除外されます。なお、各学期に配付される個人別の成績表には、履修履歴および履修辞退履歴として「J」の記号が記載されます。

(3) 履修辞退できない科目

- ① 必修科目（演習Ⅰ・Ⅱ、特別研究、物質化学専攻のみ：「共生学特論」、「高度物質化学特論・演習」、「高度物質化学実験・演習」）
- ② 事前登録が必要となる科目（RUBeC演習Ⅰ・Ⅱ）
- ③ 集中講義期間に実施される科目
- ④ 単位互換科目
- ⑤ 教育実習に関する科目、介護等体験、教育実習指導Ⅰ、ⅡA、ⅡB
- ⑥ その他、上記以外に研究科が設定する科目（別途指示）

(4) 履修辞退の申出期間

履修辞退の申出期間は下記の日程です。

学 期	履修辞退受付期間
第1学期（前期）	5月12日（月）～ 16日（金）16：00まで
第2学期（後期）	10月20日（月）～ 24日（金）16：00まで

(5) 履修辞退の申出方法

上記、履修辞退の申出期間にポータル「web履修辞退申請」から申請してください。受付期間中に、ポータルを利用した申請が出来ない理由を有する者は、理工学部教務課に相談してください。

(6) 留意事項

通年科目を前期期間中に履修辞退の申し出をした場合は、後期の当該科目分にかかる登録単位数は登録制限単位から除外され、カウントされません。また、後期の履修登録がある場合は、履修辞退した科目の同一曜講時に半期完結型の後期開講科目を履修登録することができます。

なお、履修辞退の申し出による単位数計算は以下のとおりです。

履修辞退申し出時期	科目区分	単位数の計算
第1学期（前期）	前期科目	カウントします
	通年科目	第1学期（前期）はカウントしますが、第2学期（後期）はカウントしません
第2学期（後期）	後期科目	カウントします
	通年科目	カウントします

V 成績評価

成績評価は、個々の科目について定められている単位数に相当する量の学修成果の有無やその内容を評価するために行われます。成績評価は、一般的に100点満点法で評価され、60点以上の評価を得られた場合に所定の単位が認定されます。

1. 成績評価の方法

成績評価は、おおよそ次の4種類の方法があり、これらのうちの1または2以上を合わせて評価されます。各科目の成績評価方法は、その科目の特性に応じて授業担当者によって定められています。その内容はシラバスに明示されているので参照してください。

- ① 筆答試験による評価
- ② レポート試験による評価
- ③ 実技試験による評価
- ④ 授業への取組状況や小テストなど、上記試験による評価の他に、担当者が設定する方法による評価

2. 成績評価の基準

- ① 成績評価は、100点を満点とし60点以上を合格、それを満たさない場合は不合格とします。
- ② 一度合格点を得た科目（＝既得科目）は、いかなる事情があっても、再度履修し成績評価を受けることはできません。
- ③ 履修登録した科目の試験を受験しなかった場合、その試験の評価は0点となります。ただし、この場合でも、試験による評価以外に授業担当者が設定する方法により評価される場合があります。
- ④ 段階評価と評点の関係は、次のとおりとします。

段階評価と評点			
S（90～100点）	A（80～89点）	B（70～79点）	C（60～69点）

上記の段階評価以外に、特別研究はG（合格）・D（不合格）で評価します。単位認定された科目の場合はN（認定）となります。

- ⑤ 学業成績証明書は、すべて段階評価で表示し、不合格科目は表示しません。
- ⑥ 学業成績表は、第1学期（前期）分を9月下旬、第2学期（後期）分を3月下旬に配付します。指定された期日及び場所において学生証を提示の上、受け取ってください。

3. 成績疑義

成績評価について疑義がある場合は、必ず所定の「成績疑義申出用紙」に疑義内容を記入した後、理工学部教務課窓口に提出してください。授業担当者に直接申し出てはいけません。

なお、申出期間については、成績表配付日を含めて3日間（土・日除く）です。詳細は別途掲示します。

4. 筆答試験

(1) 筆答試験の時期

筆答試験をその実施時期によって分類すると、次の2種類になります。

ア 定期試験（学期末・学年末試験）

個々の科目について定められている授業期間の終了時期（通常の場合は学期末）に実施する筆答試験をいう。

イ 追試験

定期試験欠席者のために、定期試験終了後に改めて実施する筆答試験をいう（追試験の項を参照のこと）。

(2) 受験資格

次の各号に定める条件をすべて備えていないと受験資格を失い、受験することができなくなる恐れがあります（追試験については、追試験の項を参照のこと）。

ア その科目について、有効な履修登録がなされていること。

イ 定められた学費を納入していること。

ウ 授業に出席していること。原則として3分の2以上の出席があること。

エ 授業担当者の求める諸条件を満たしていること。

(3) 筆答試験に際しては、次のことを守らなければなりません。

ア 指定された試験場で受験すること。

イ 試験開始20分以上の遅刻および30分以内の退室は許されない。

ウ 学生証を携帯すること。

エ 学生証を必ず机上に提示し、写真欄が見えるよう机上通路側に置くこと。

万一学生証を忘れた場合には、理工学部教務課窓口で「試験用臨時学生証」の交付を受けておくこと。

オ 答案（解答）用紙が配付されたら直ちに年次、学籍番号、氏名を「ペンまたはボールペン」で記入すること。

カ 参照を許可されたもの以外は、指示された場所におくこと。

キ 試験開始前に携帯電話等の電源を切り、鞆の中に入れること。

ク 答案（白紙答案を含む）を提出しないで退室しないこと。

(4) 次の場合は、その答案は無効となります。

ア 無記名の場合。

イ 指定された場所に提出しない場合。

ウ 試験終了後、試験監督者の許可なく氏名を書き直した場合。

エ 受験態度の不良な場合。

(5) 筆記試験における不正行為

ア 受験中に不正行為を行った場合は、その学期に履修登録をした全科目の単位認定を行いません。

さらに、不正行為の程度により、学則に定める懲戒を加えることがあります。

イ 次に該当する場合は、これを不正行為と見なします。

① 私語や態度不良について注意を与えても改めない場合。

② 監督者の指示に従わない場合。

③ 身代わり受験を行ったとき、または行わせた場合。

④ カンニングペーパー等を所持していた場合。

⑤ 携帯電話、スマートフォン、情報端末等をかばん等にしまっていない場合。

⑥ 許可された以外のものを参照した場合。

⑦ 机上等への書き込みをしていた場合。

- ⑧ 許可なくして物品や教科書、ノート類を貸借した場合。
- ⑨ 答案用紙の交換および見せ合いをした場合。
- ⑩ その他、①～⑨に準じる行為を行った場合。

(6) レポート試験における不正行為

レポート試験については、既存文書からの不正な転用等が認められたとき（例えば、インターネット等から複写したような場合）は、当該レポートを無効扱いとし、単位認定をおこなわない場合があります。

(7) 追試験

① 追試験の受験資格

追試験受験願および欠席理由証明書(医師診断書、交通遅延証明書または事故理由書、就職試験等による場合は会社あるいは団体が発行する証明書等)をその科目の試験日を含めて4日以内（土・日・祝日は含めない。ただし、土曜日が試験日の場合は試験当日を含む4日以内）に理工学部教務課窓口に提出しなければなりません。

交通遅延証明書のうち、Web発行によるものは本人が乗車したことを証明するものではありませんので、欠席理由の証明書として、本学では取扱いできません。

交通遅延証明書は従来通り、「本人が乗降した際に各駅にて受け取ることができるもの」のみを証明書として取扱います。

なお、定期試験当日、医師の診断の結果、インフルエンザなどの流感により外出が制限され、定期試験を受験できなかった場合は、追試験申込期限内に理工学部教務課まで連絡してください（電話による連絡可）。

- (1) 病気や怪我、試験時における体調不良等による受験ができなかった者。
 - (2) 親族（原則として3親等まで）の葬儀により受験ができなかった者。
 - (3) 公認サークルの公式戦に選手として参加することにより受験ができなかった者。
 - (4) 資格試験（公務員試験、公的資格試験等）や就職活動（説明会、筆記試験、面接等）により受験ができなかった者。
 - (5) 単位互換科目（大学コンソーシアム京都科目、環びわ湖大学・地域コンソーシアム科目）の試験により受験ができなかった者。
 - (6) インターンシップ実習（協定型インターンシップ、大学コンソーシアム京都インターンシップ・プログラム）により受験ができなかった者。
 - (7) 交通機関の遅延等により受験ができなかった者。
 - (8) 交通事故や災害等により受験ができなかった者。
 - (9) 裁判員制度による裁判員（候補者）に選任されたことにより受験できなかった者。
 - (10) その他、理工学研究科委員会が特に必要と認めた者。
- ② 追試験の受験料は、1科目1,000円です。
- ③ 実技・実習科目、レポート試験による科目、特別に指定された科目については、原則として追試験は行いません。
- ④ 追試験での評点は、最高100点です。

(8) 試験時間

筆答試験時間割は、原則として試験の14日前に掲示およびポータルにより発表します。

試験時間は、次のとおりです。

	1 講時	2 講時	3 講時	4 講時	5 講時	6 講時
開始時刻	9 : 20	11 : 10	13 : 30	15 : 20	17 : 10	19 : 00
終了時刻	10 : 50	12 : 40	15 : 00	16 : 50	18 : 40	20 : 30

※ 2、4、5 講時は通常の講義開始時間と異なるので注意すること。

